

地域医療連携室 だより

宮城県立がんセンター
MIYAGI CANCER CENTER

平成20年1月1日発行



発行 地域医療連携室
TEL (022)384-3151
FAX (022)381-1169



質の高いがん看護をめざして

看護部長 星 しげ子

宮城県立がんセンターの基本理念は「患者様の視点に立ち、良質かつ先進的医療を提供し、がん専門病院としての使命を果たす」です。その理念を受けて看護部では「人々の生命及び人権を尊重し、質の高いがん看護を提供します」という理念の基に

1. 患者様のニーズを的確に捉え、安心感、満足感とともに信頼される看護に努めます。
 2. 専門職業人として主体的に学び、人間の成長とがん看護の実践能力の向上を目指します。
 3. 医療チームの一員としての役割と責任を果たし、地域及び多職種との連携を深めます。
 4. 業務改善を推進すると共に経済効率の向上を目指します。
- 以上の方針をたてております。

看護部では、患者様・ご家族のQOLを尊重し、安全で快適な環境の中でよりよい療養生活が送れるように、継続性のある看護を行っています。そのために、看護方式はプライマリーナーシング方式をとっております。この方式は患者様が入院から退院、再入院に至るまで一貫してひとりのナースが患者様の看護計画の立案、実施、評価と看護に責任を持ちます。看護職員一人ひとりの努力もあって患者様・ご家族からはよい評価を頂いております。また、「負担は少し重いけど達成感も大きい」という声が生き生きと働くナースから聞かれます。このように各自が成長することで患者様によりよい看護を提供できると考えております。

さらに、専門性を高めるためには人材の確保と育成の強化が重要と考えています。当院では2006年から認定看護師5名が誕生しております。具体的には緩和ケア認定看護師2名、感染管理認定看護師1名、がん性疼痛認定看護師1名、がん化学療法認定看護師1名です。認定看護師の活動としては、緩和ケアチーム、ICTとチームを作り週1回の巡回とミーティングをし、コンサルテーション活動を通してそれぞれの専門的立場から観察と指導に取り組んでいます。認定看護師より定期的な指導を受けることで、視野も広がりスタッフの意識も変わってきました。

今後、専門性を活かしたナースたちが活動することで、病院全体の質の向上に繋がっていきたいと考えております。皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

なお、地域の皆様にも認定看護師をご理解の上、ご活用をいただければ幸いです。

看護部紹介



看護部副部長と各看護長

3階東病棟

看護長 澁谷 利枝子

3階東病棟は、呼吸器内科と呼吸器外科の50床の病棟です。住民健診で精密検査が必要になった場合は、がんの診断のために、(1)気管支鏡検査 (2)直接肺の細胞を採取する肺生検 (3)胸腔内穿刺を行って得られた胸水を調べる検査などがあります。がんの診断が付いた場合には、手術療法・化学療法・放射線療法などのほか、気管支鏡を用いたレーザーによる治療を行っております。

また、呼吸療法認定士という呼吸管理を行うための専門的な知識を持った看護師がおり、呼吸器特有の咳や痰・息切れ・呼吸苦痛や、治療に伴う様々な症状のケアを行い、患者様の入院中の生活が安全にそして安楽に送れるような援助を行っております。

3階西病棟

看護主任 亀山 実穂子

当病棟は消化器外科と乳腺科の外科病棟です。主な疾患は、胃がん、結腸がん、肝臓がん、胆管がん、すい臓がん、乳がんなどです。

治療としては手術の他、化学療法、放射線療法も行っています。看護師は栄養管理に基づいた術後管理を行う為にNST(栄養サポートチーム)の勉強会に参加し、栄養管理がもたらす効果について学びを深めています。日頃から看護の質が高められるよう自己研鑽に努めています。

また、わかりやすい看護計画の共有と、看護の標準化をする為に医師と連携し、クリニカルパスを作成・活用しています。

4階東病棟

看護長 船迫 好子

婦人科30床、放射線科16床、緩和医療科4床の病棟です。婦人科医師3名・放射線科医師2名・緩和医療科医師1名・看護師23名のスタッフです。入・退院患者数は、月70～80名前後、病院の中では1～2位となっております。

治療としては手術と化学療法、放射線療法を行っております。入院期間は短期、長期とばらつきがありますが、空床のある時は積極的に他科の患者様も受け入れています。当病棟では、患者様、家族の意思を尊重した治療、看護を行っています。

4階西病棟

看護長 我妻 和子

当病棟は耳鼻咽喉科30床、脳外科18床、形成外科2床の混合病棟です。手術、放射線療法、化学療法、選択的動注療法などを行っています。

看護としては、①転倒転落の防止、②意思疎通が困難な患者様へのケア、③患者個々のQOLを重視したケアなどを充実させるべく専門的知識・技術を駆使し、患者・家族の意向を取り入れた看護計画を立案し、実践しております。今後も患者様に寄り添い、安心と信頼を得ること、QOL向上の為に支援を重視した看護を実践していきたいと思っております。

5階東病棟

看護長 鈴木 久美子

当病棟は泌尿器科、整形外科の混合病棟です。看護師は看護長を含め22名ですが、男性看護師が3名配置されており、良いコンビネーションで安全・安楽をモットーに、和やか且つ的確に患者様のケアに努めております。

今年度は広い車椅子用のトイレが新設されました。モデル箇所との事で看護長が設計段階から、より使い勝手が良いようにと便器の位置や高さ、ナースコールの位置、壁紙、ドアガラスのサイズや質について、事務局の方々と意見交換をして施工しました。患者様からも好評を得ております。

優秀な医師を始めとし、多職種とチームを組み適切な医療を提供いたします。

5階西病棟

看護長 菅間 りつ子

当病棟は、消化器内科の単科病棟です。主な疾患は、胃癌・食道癌・大腸癌・大腸ポリープ・肝臓癌・肝硬変・膵臓癌・胆のう癌・胆管癌などです。

検査、治療(内科的手術療法・化学療法・放射線療法・インターフェロンなど)を主にしていますが、終末期の患者様も多いです。平均在院日数は20.4日、病床稼働率は81.3%で最も入・退院の多い病棟です。

看護師は24名で2/3が30歳までの若い年齢層の病棟です。看護目標の達成においてスタッフが一丸となって取り組むと共に、患者・家族のニーズを的確に捉え、安全で満足いただける看護を提供していきたいと考えております。

6階病棟

看護長 門間 京子

当病棟は血液内科26床、化学療法科10床、消化器科4床の3診療科に加えて、特別室4床、無菌室5床を備えており、病床数は49床です。また、10月から12月の期間は宮城県職員を対象に1泊2日の人間ドックも受け入れています。

血液内科が行っている造血幹細胞移植は昨年度17症例であり、県内屈指の実績を誇るものです。

看護の面では、移植に伴い無菌室で治療を受ける患者様の感染管理はもとより精神的ケアを心がけています。感染管理の一環として状態に応じて加熱食を提供していますが、現在「化学療法を受けた血液疾患患者の準加熱食に対する思い」と題して院内研究を進めています。

これからも常に患者様の声に耳を傾けて療養環境を整えていきたいと思っております。

H C U

看護長 菊池 かづ子

HCUに入室する患者様は年間約800名で、全身麻酔で手術を受けた方が多くを占めていますが、院内で発生した重症患者様(がん終末期患者様を除く)も年に数例受け入れています。

また、皆さんの中にはご存知でない方もいると思いますが、外来患者様の手術を担当しており、月曜日午前は形成外科・金曜日午後は外科を行なっています。

HCUでは、各診療科医師と連携を密に日々患者様が安全で安楽に過ごせるように看護を提供しております。

手術室

看護長 石原 和枝

当手術室は常勤麻酔科医2名看護師13名で、患者様に安全で安心できる手術を目標に業務しております。

手術診療科は外科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻科、脳外科、形成外科、整形外科と骨髄採取のための血液内科の9科で手術を実施しております。

手術を受ける患者様が、麻酔や手術室の看護・処置を理解され安心して手術が受けられるように、麻酔科医・看護師による術前訪問を実施しております。常に不安な患者様の気持ちに添える医療者を心がけ、手術に伴う苦痛を取り除くよう取り組んでおります。

第1外来

看護長 星 久美

「病院の顔」といわれる外来です。身だしなみが整っていることなどはもちろんのこと私たち第1外来のスタッフ一同は、患者様やご家族の皆さんに安心と満足の家を持って帰っていただくよう日々努力しております。

患者様たちはがんセンターにおいてになる時、いろいろな心配事や不安な気持ちを持っておられるのではないかと思います。そのような患者様の気持ちに寄り添った看護を提供していきたいと考えております。忙しいにしている時もあるかもしれませんが、気軽に声をかけていただけるようないい雰囲気作りを心掛けております。*時々“んだね〜”などと名取弁で親しみやすさを強調しています! ?どうぞいつでも声をかけてください。

第2外来

看護長 佐藤 隆宏

当外来は、看護長1名・主任2名・スタッフ11名です。

上部内視鏡(胃・膵臓・胆嚢)下部内視鏡(大腸・結腸・直腸)CT、MRI、アンギオ(血管造影・腫瘍の進行を抑える動注療法など)気管支鏡、腹部エコーなどの検査・治療を安心・安全・安楽に受けただけできるよう努力しております。

また、疾患や特徴について充分理解し看護の充実を図っています。これらは看護師だけに留まらず、医師および放射線技師とカンファレンスを行い、医療従事者全員心を一つにして日々取り組んでおります。

● 緩和ケア病棟については、vol.3でご紹介しております。

外来新患診療体制表 平成20年1月現在

(宮城県立がんセンター)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
消化器科		●	●	●	●	●
内科	血液内科	●	●	●	●	●
	循環器科	●		●	●	
	化学療法科	●		●	●	
呼吸器科		●	●	●	●	●
外科	乳腺科	●		●	●	
	外科	●	●	●		●
整形外科			●		●	●
脳神経外科		●		●		●
頭頸科(耳鼻いんこう科)		●	●		●	
形成外科			●			●
婦人科		●	●		●	
泌尿器科		●		●	●	
放射線科		●	●		●	
緩和医療科				●		●

診療受付時間：午前8時30分～11時00分までをお願いします。
TEL (022)384-3151(代) FAX (022)381-1169

センターからのお知らせ

◆宮城県立がんセンターセミナー

●第157回

- 演題：「リン酸化によるSplicing因子 Sap155の制御機構と癌」
- 演者：田沼延公先生
宮城県立がんセンター研究所
薬物療法学部
- 日時：平成20年1月25日(金) 17:30～18:30
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

●第158回

- 演題：「がん対策基本法とがん医療の将来像」
- 演者：武藤徹一郎先生
癌研有明病院長
- 日時：平成20年2月9日(土) 16:00～17:00
- 場所：宮城県立がんセンター 大会議室

当研究部で現在行なっている主に脱リン酸化酵素側から迫った①可逆的リン酸化によるSap155制御機構の解析結果を紹介し、短・中期的な今後の研究計画、すなわち②splicingを標的とした癌治療法の開発や腫瘍マーカー探索への応用や③Sap155と癌幹細胞との関連等について、最近の話題や出来事を交えつつ概説する予定です。
Sap155は、基本splicing因子として、原則的に全ての遺伝子のsplicingに必須の蛋白です。Splicing因子としての機能に加え、Sap155は、ポリコム複合体構成因子としてHox遺伝子群(発生や癌幹細胞に深く関与する)のエピジェネティックな発現制御にも必須である事が明らかになってきました。まず、キナーゼCDK2とホスファターゼPP1の連携によるSap155リン酸化の制御機構に関する最近の我々の知見の紹介から始めようと思っています。

がん対策基本法が成立し実施に移され、がんプロフェッショナル養成プランもスタートすることになり、日本のがん医療にもようやく陽光が照り始めたように見える。しかし、実態はどうか？
難治がんと呼ばれる高度進行がん、再発がんへの真剣な対応なくして、がん医療が進歩したとは言えないであろう。癌研有明病院における取り組みを通して、がん医療のあるべき姿を語りたい。



交通案内

- J 宮城交通バス** 東北本線名取駅下車、バスまたはタクシーを利用名取駅西口から「県立がんセンター」行きを利用「げんき名取号(愛島線)」
- R 名取市福祉バス** 名取市役所前から「北目上原」行きを利用
- 自家用車** 仙台南インターからは、国道286号バイパス経由県道仙台・岩沼線を利用(所要時間約15分)

—相談支援センターのご案内—

- 受付時間 (面談) 午前10時から12時 (電話) 午前8時30分から午後5時15分まで
- 面談場所 がんセンター 相談室(1階)
- 電話 (022) 384-3151(代)
- FAX (022) 381-1169

宮城県立がんセンター
〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47の1
電話(代表) (022)384-3151 FAX(総務班) (022)381-1168

□ゴマークの3本の柱は「治療、予防、研究」を、上の「まる」は患者さんを表わしています。3本の柱が、患者さんを支えるという意味です。